

宇治の女君たち・宇治



朝霧橋のたもとには
宇治十帖のモニュメントが...

ツアーポイント

源氏物語五十四帖のうち、「宇治十帖」にスポットをあて、それぞれの姫君ゆかりの場所を訪ねます。



「宇治十帖」の世界へ誘う古跡めぐりの散策

平安の都を東南に離れ、都人が山荘や草庵を営んだ宇治。そこには悠久の時を超えて宇治川が流れ、多くの物語を生みだしてきました。平安時代中頃には、紫式部が川霧に包まれた宇治橋に想いをめぐらせ、「源氏物語」最後の十巻「宇治十帖」を書いています。

このコースは、宇治川沿いや喜撰山の麓、世界遺産「平等院」の周辺に「宇治十帖」の舞台を訪ねます。そこここに点在する主人公たちが詠んだ歌や姫君ゆかりの古跡の前にたたずむ時、はかなくも悲しい恋物語の世界がイメージ豊かに甦ってくるでしょう。

宇治

姫君たちが織りなす平安絵巻、
源氏物語の古跡をめぐる



うじのわきいらつこおんはが
菟道稚郎子御墓(宇治市)



源氏物語ミュージアム(宇治市)
TEL.0774-28-0220 P4参考

源氏物語ゆかりの地を訪れる前に平安王朝文学の世界をご紹介します。

START



はしでら ほうじょういん
橋寺・放生院(宇治市)
TEL.0774-21-2662

聖徳太子の命で秦河勝が創建したと伝えられています。宇治橋との関わりが深いことから橋寺の名前で親しまれています。

JR・京阪「宇治駅」下車、境内自由、9:00~17:00(11月~2月・16:00まで)



うじがみじんじゃ
宇治上神社(宇治市)
TEL.0774-21-4634

源氏物語では、光源氏の異母弟の宇治八宮の庵は宇治上神社付近に想定されています。JR・京阪「宇治駅」下車、参拝自由、8:00~16:30



みむるとじ
三室戸寺(宇治市)
TEL.0774-21-2067

第五十一帖「浮舟」
「たちばなの小鳥は色もかはらじを この浮舟ぞゆくへ知られぬ(浮舟)」

西国三十三箇所第10番札所、三室戸寺の境内、鐘楼のとなりにあります。

阿彌陀如来増、観音・勢至菩薩像など重要文化財の仏像も多く、あじさいの寺としても有名です。

京阪「三室戸駅」下車、入山料一般400円、霊宝殿一般300円、8:30~16:30(冬期は16:00まで)、霊宝館は毎月17日のみ公開



おちかたじんじゃ
彼方神社(宇治市)

第四十六帖「椎本」
「たちよらむ蔭と頼みし椎が本 むなしき床になりけるかな(薫)」

京阪宇治駅東南にある彼方神社が椎本の古跡。諏訪明神を祭神としています。



かげろういし
蜻蛉石(宇治市)

第五十二帖「蜻蛉」
「ありと見て手には取られず見れば又ゆくへも知らず消えし蜻蛉(薫)」

京阪宇治駅から三室戸寺に向かう道の途中にある高さ2mの自然石。縁掘りされた阿彌陀三尊は平安時代末期のもの。



びょうどういん
平等院(宇治市)
TEL.0774-21-2861

光源氏のモデルとも言われる源融の別荘「宇治院」を、のちに藤原道長が購入し、さらに息子・頼通が寺院とし「平等院」となりました。

JR・京阪「宇治駅」下車、拝観料鳳凰堂一般500円 / 鳳翔館一般600円、9:30~16:30(鳳翔館9:00~17:00)・季節により変更あり



宇治橋(宇治市)

第五十四帖「夢浮橋」
「法の師とたづぬる道をしるべにて思はぬ山に踏み惑ふかな(薫)」



橋姫神社(宇治市)

第四十五帖「橋姫」
「橋姫の心をくみて高瀬さす棹のしずくに袖ぞぬれぬ(薫)」
宇治橋西詰めにある橋の守り神。

西の京とがんこ一徹長屋 (歴史にふれる伝統的地場産業探訪の旅)



大和の国に受け継がれた伝統工芸
がんこ一徹長屋で
匠たちの技にふれる

のどかな風景の西の京にたどる、悠久の歴史の旅

なだらかな平城山の麓にあたる西の京を、「奈良歴史の道」に沿って散策するコースです。寺社や古墳、天皇陵が散らばるのどかな田園風景の中を行くと、菅原道真の生誕地といわれる菅原の里。道真を祭神とする菅原神社、「試みの大仏殿」で知られる喜光寺を訪ねます。垂仁天皇陵を過ぎると、天平文化華やかかりし頃そのままの大伽藍が残されている唐招提寺、薬師寺が迎えてくれます。

最後の道筋は、奈良の伝統工芸に取り組む若き匠6人衆の職場「がんこ一徹長屋」と「墨の資料館」。古都ならではの地場産業を現代に伝える情熱を体感してください。

START



すがわらしんじや
菅原神社(奈良市)
TEL.0742-45-3576

菅原道真がご祭神。道真はここで生まれたといわれ、全国の天満宮の中でも特に由緒正しいと、地元で信仰されています。(境内には筆塚があり、2月～3月には盆梅展も開催されます) 近鉄「尼ヶ辻駅」下車



ツアーポイント

喜光寺
「試みの大仏殿」。行基が東大寺大仏殿を建立する前に建てたお寺。

唐招提寺
天平の観で有名な金堂を見学。

薬師寺
当時のまま残る東塔は白鳳時代の代表的な建築物。

がんこ一徹長屋
一刀彫、漆、とんぼ玉など、大和の国の匠の技を見学。



きこうじ
喜光寺(奈良市)
TEL.0742-45-4630

行基が創建したお寺。本堂は「試みの大仏殿」と呼ばれています。これは、行基が東大寺大仏殿を建立するにあたり、試みに本堂を造ったからだという伝承によるもの。堂内には阿彌陀如来像が安置されています。

近鉄「尼ヶ辻駅」下車、一般300円、9:00～16:30



職人さんの作った墨でためし書き

いってつなや
がんこ一徹長屋(奈良市)
TEL.0742-41-7011

奈良の伝統工芸である一刀彫、漆、とんぼ玉、茶筌、赤膚焼きなどの職人が集まった長屋。職人の仕事場と作品の販売スペースを兼ねているので、職人技を間近で見学することができます。

墨の資料館 習字体験
近鉄「西ノ京駅」下車、一般500円、10:00～16:30、月曜(祝日の場合は翌日)



墨の資料館

奈良西の京

天平文化と歴史ロマンが香る



すいにんてんのうりょう
垂仁天皇陵(奈良市)

全長227mの前方後円墳。垂仁天皇は殉死の風習をやめ、代わりに埴輪を埋めるようにしたといわれています。



薬師寺東塔



やくしじ
薬師寺(奈良市)
TEL.0742-33-6001

天武天皇が皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈り、飛鳥浄御原に建立。平城遷都の時、現在の場所に移されました。フェノロサが「凍れる音楽」と評した東塔は創建当時の姿を残す清麗な建物です。

近鉄「西ノ京駅」下車、一般500円、8:30～17:00



とうしょうだいじ
唐招提寺(奈良市)
TEL.0742-33-7900

鑑真和上が建立した天平時代の代表的建物。「天平の観」で有名な金堂、講堂、鼓楼、経堂など国宝の堂々たる建築物が建ち並びます。

近鉄「西ノ京駅」下車、一般600円、8:30～16:30



田園風景の中に、
太子ゆかりの寺々の塔がそびえる

聖徳太子の面影をたどる旅

斑鳩は、聖徳太子の面影がいたるところに残されています。太子は605年に、飛鳥から斑鳩に移り住み、仏教の理念を政治にとり入れた国家統一に力を尽くしました。斑鳩という地名も、太子の斑鳩宮から名付けられています。

このコースでめぐるのは、いずれも聖徳太子とゆかりの深い寺々。ボランティアガイドや講師による太子とそれぞれの寺とのゆかり、飛鳥時代の仏教美術の解説は興味津々。斑鳩三塔と呼ばれる法隆寺の五重塔、法輪寺、法起寺の三重塔を見比べてみるのも一興です。太子ロマンの里で悠久の歴史を満喫してください。

斑鳩観光のことなら……

法隆寺iセンター



斑鳩の観光案内のほか、町内の寺院や古墳など観光に役立つ情報をパンフレットや映像などで紹介。
TEL.0745-74-6800 P.40参照

START

ボランティアガイド

郷土斑鳩の風土、
歴史などを道案内を兼ねて
ガイドします。

<申し込み・お問い合わせ>
レーベンいかるがの会

TEL.0745-75-0884

ツアーポイント

法隆寺、法起寺、法輪寺
聖徳太子ゆかりの三塔を見ながら、のどかな田園風景を散策。

法隆寺
世界遺産に指定された法隆寺。国宝、重要文化財の数々を見ることができます。

中宮寺
聖徳太子の母である間人皇后の御所だったところ。弥勒菩薩半か思惟像が魅力的。



斑鳩のイベント

法隆寺の鬼追い(2月3日)
春を呼ぶ節分の鬼追いとしては大和に残る節分行事のなかでも古い形を残しています。

法隆寺会式(3月20日~22日)

斑鳩神社の秋祭(10月中旬)
法隆寺の鎮守を神社まで迎え、法隆寺までお参拝します。みこしがぶつかりあう盛大な

もみじ祭(11月中旬日曜日)
古くから紅葉の名所として知られる竜田川で野点、琴演奏などをおこないます。



ちゅうくうじ
中宮寺(斑鳩町)
TEL.0745-7 5-2106

聖徳太子の母、間人皇后の御所だった所。本尊の弥勒菩薩半か思惟像は、格調高く、優しさにあふれています。
拝観料一般400円



斑鳩

太子ロマンのさと



ほうりゅうじ
法隆寺(斑鳩町)
TEL.0745-75-2555

世界最古の木造建築物である金堂、わが国最古の八角円堂である夢殿。また、止利仏師作の釈迦三尊像や薬師如来、国宝の飛鳥仏、百済観音、玉虫厨子など数多くの寺宝が拝観できます。

JR「法隆寺駅」下車/バス、西院回廊内、大宝蔵院百済観音堂、東院共通 一般1000円、8:00~15:30(11月4日~2月21日・15:00まで)



ほうりんじ
法輪寺(斑鳩町)
TEL.0745-75-2686

山背大兄皇子が太子のために建立したと伝えられています。五重塔は昭和19年、落雷で焼失したが、昭和50年「五重塔」の作者幸田露伴の子、幸田文氏らの尽力で再建されました。
近鉄「筒井駅」下車。バス/JR「法隆寺駅」下車 バス、一般400円、講堂拝観 8:00~17:00(冬期は16:30まで)



ほうきじ
法起寺(斑鳩町)
TEL.0745-75-5559

山背大兄皇子が太子のために建立したと伝えられています。五重塔は昭和19年、落雷で焼失したが、昭和50年「五重塔」の作者幸田露伴の子、幸田文氏らの尽力で再建されました。
拝観料 一般300円

古代史ロマンの里 “明日香村”を訪ねる

甘樫丘から
大和三山を見はるかす



ツアーポイント

高松塚古墳

7～8世紀の円墳。内部の石室には極彩色の壁画が見られます。

謎の石造物「亀石」

飛鳥には謎の石造物があちこちに。亀の形をした大きな石が道沿いにひっそりとたたずんでいます。

飛鳥寺

蘇我馬子の発願で建立された日本初の本格寺院。

伝板蓋宮跡

大化改新の舞台となった宮跡で古代のロマンにひたります。

古代史の中心舞台を踏みしめる旅

6世紀から平城京遷都までの飛鳥時代は、まさにわが国古代史の中心舞台。蘇我氏の台頭、聖徳太子による摂政政治と仏教文化の開花、さらに大化の改新など、壮大なロマンが凝縮された時代です。

このコースは、明日香村に古代史を物語る貴重な遺跡を訪ねます。高松塚古墳や石舞台古墳などの遺跡、亀石をはじめとする謎の巨大石造物。日本最初の本格的な寺院である飛鳥寺、大化の改新の舞台となった伝飛鳥板蓋宮跡。そして最後に、飛鳥や橿原はもとより、大和三山を見渡せる甘樫丘に登る頃、古代人の息づかいが聞こえてくるかもしれません。



国営飛鳥歴史公園館(明日香村)

TEL.0744-54-2441 P.40参照

飛鳥に点在する史跡を映像などを用いてわかりやすく解説しています。

無休 近鉄吉野線「飛鳥駅」から徒歩約10分。



たかまつづかこふん

高松塚古墳(明日香村)

TEL.0744-54-3340

昭和47年に発見された円墳で、7～8世紀のものと推定されており、内部の石室には極彩色で描かれた壁画が残されています。隣接する高松塚壁画館で再現された壁画など内部の様子を見ることができます。

高松塚壁画館 一般210円、9:00～16:30

休館日 月曜、祝日の場合は翌日/4月～5月・10月～11月は無休



飛鳥寺の裏手にある入鹿の首塚



あすかであら

飛鳥寺(明日香村)

TEL.0744-54-2126

蘇我馬子の発願で建立された日本初の本格的寺院。本尊・釈迦如来像は日本最古の仏像として知られています。

一般300円、9:00～17:15(10月～3月・16:45まで)



日本の原風景・棚田



あまかしのおか

甘樫丘(明日香村)

標高148mの小高い丘。遊歩道に沿って万葉の植物が植えられおり、山頂からは、耳成山、畝傍山、天香久山の大和三山が見渡せます。

古代史ロマンのさと



かめいし

亀石(明日香村)

長さ3.6m、重さ40トンの巨大な石。道ばたにひっそりとうずくまる亀石は、西を向けば飛鳥一帯が大洪水になるという言い伝えがあり、謎とロマンをかきたてます。



おにのせっちん・まないた

鬼の雪隠・俎(明日香村)

巨大な箱状の石造物で、大きな鬼が人を襲い、料理をしては雪隠で用を足したという話が伝えられています。実際は古墳が露出し中の石棺が流され、上の部分と下の部分に分かれたものではないかといわれています。



伝板蓋宮跡(明日香村)

大化改新の舞台となった宮跡。斉明天皇の宮殿があったといわれています。復元されている遺構は、飛鳥浄御原宮のものといわれています。



いしぶたいこふん

石舞台古墳(明日香村)

TEL.0774-54-4577

横穴式石室をもつ上円下方墳。75トン級の巨石が30数個使われた巨大な墓は、蘇我馬子の墓ともいわれています。

見学 一般200円

ボランティアガイド

歴史にふれ、自然にふれ、飛鳥で過ごす思い出づくりのお手伝いをさせていただきます。

<申し込み・お問い合わせ>
飛鳥観光協会

TEL.0744-54-2362

明日香のイベント

おんだ祭(2月第1日曜日)
「ミステリー・ロマン飛鳥」キャンペーン
(9月中旬～11月下旬)

期間中、薪能や観月会、ミステリーウォークなど多彩なイベントが企画されています。

山の辺の道と飛鳥ハイキング

日本の原風景を 見つけられる明日香



古代人の息づかいを道に、史跡を感じる旅

日本最古の官道で7世紀初めに造られた「山の辺の道」は、飛鳥時代以前からの数多くの古墳や遺跡の間をぬうように桜井から天理を経て、奈良まで続いています。その道沿いには、記紀万葉の歌碑も点在し、知らぬ間に神話や万葉の世界に誘われます。

このコースでは、「山の辺の道」を天理から南へとたどり、大化の改新の主役の一人である藤原鎌足を祭神とする談山神社を訪れた後、明日香へ入ります。日本の原風景を残す自然のもと、徒歩やサイクリングで古代史を物語る貴重な史跡をめぐる時、飛鳥の魅力のとりこになっていることでしょう。

START

ゆるやかに延びる道沿いには
万葉の歌碑や古墳、遺跡がそこここに・・・



山の辺の道

記録に残るわが国最古の道といわれる「山の辺の道」。現在、奈良市の春日山麓から大和盆地の東を天理市を経て桜井市金屋にいたる約20kmがその道であるとされています。自然のままの道は寺社、古墳の間をぬい、のんびり、のどかに古のロマンにひたることができます。

ツアーポイント

山の辺の道

日本最古の官道である道沿いには寺社や古墳、そして万葉の歌碑が多く見られます。

飛鳥の里

日本の原風景が残される飛鳥で古代ロマンを体感します。

明日香のイベント

玉の緒祭

(石上神宮 2月節分の前夜)

ちゃんちゃん祭

(大和神社4月1日)

大和神社の春の大祭。神社から東南の御旅所までの1.5kmを神輿とともに稚児や僧侶が「ちゃんちゃん」と鉦を打ちながら往復します。

でんでん祭

(石上神宮6月30日)

ふる祭(石上神宮10月15日)

桜井

万葉のロマンを 感じるまち

飛鳥

歴史探索への 出発の地



おかでら 岡寺(明日香村)

TEL.0744-54-2007

西国三十三箇所第七番札所。本尊の如意輪観音坐像は厄除けの観音として信仰を集めています。春には約3000株のシャクナゲが境内を彩ります。近鉄「橿原神宮前駅」下車。奈良交通バス、一般300円、8:00～17:00(12月～2月・16:30まで)



たちばなでら 橘寺(明日香村)

TEL.0744-54-2026

聖徳太子生誕の地として知られるお寺。本尊は太子35才の撰政像、境内には善悪2つの顔を表す二面石があります。近鉄「橿原神宮前駅」下車。奈良交通バス、一般300円、9:00～17:00

みずおちいせき 水落遺跡(明日香村)

中大兄皇子(後の天智天皇)は日本初の水時計(漏刻)を作りました。現在は基壇と25本の柱が再現されています。



たんざんじんじゃ 談山神社(桜井市)

TEL.0744-49-0001

大化改新の主役の一人である藤原鎌足を祭神とする神社。鎌足が中大兄皇子と蘇我入鹿を討つ相談を行った場所といわれ「談(かたらい)山」が神社の名前の由来とが、春は桜、秋には紅葉が彩ります。

JR・近鉄「桜井駅」下車。バス、一般500円、9:00～16:30

ちょうがくじ 長岳寺(天理市)

TEL.0743-66-1051

弘法大師が開いたと伝えられており、わが国最古の鐘楼門、水晶の玉眼をいれた阿彌陀三尊像が残されています。

JR・近鉄「天理駅」下車。奈良交通バス、一般300円、10:00～17:00



いそのかみじんぐう 石上神宮(天理市)

TEL.0743-62-0900

「石上布留の神杉さびし 恋をも吾はさらにするかも」と柿本人麻呂が万葉集に詠っている神社。現存する日本最古の拝殿をもち、神庫には数多くの武器が収められています。

JR・近鉄「天理駅」下車。参拝自由



ひばらじんじゃ 檜原神社(桜井市)

TEL.0744-42-6633(大神神社)

大神神社の摂社。三輪山をご神体とするため、松林の中に三つの鳥居が建っているのみという珍しい神社です。境内自由 JR「三輪駅」下車

すじんでんのうりょう 崇神天皇陵(天理市)

大和政権の基盤を作ったといわれる第10代の天皇。陪塚と呼ばれる4基の古墳を従えた全長240mの前方後円墳です。